

# 新宿区議会 羊平レポート

自民党区議団ニュース  
平成24年7月 Vol.3  
新宿区議会議員 桑原 羊平

議員生活も早1年3ヶ月目を迎えました。区議会報告として第2回定例会で決定した「肺炎球菌ワクチンについて」と「木造住宅の耐震改修工事補助要件の拡大について」等のレポートをしたいと思います。



## 肺炎球菌ワクチンの助成金について

10月1日から区内在住で65歳以上の方は本来は8千円の所4千円で接種を受けられるようになります。接種には、区が発行する予診票が必要です。対象の方には9月下旬頃送られてきます。

また、インフルエンザワクチンはこちらも10月1日から25年1月31日までの期間2200円で接種を受けられます。また、75歳以上の方は無料で接種できます。こちらも予診票が必要になります。



## 肺炎球菌について

肺炎は日本人の死因としては、がん、心疾患、脳血管疾患に次いで4位の病です。介護を受けている高齢者の方は、肺炎にかかるリスクが高いといわれています。その理由として、肺炎は細菌やウイルスなどが肺に入り込んで、炎症が起きる病気で、高齢者の方は抵抗力が低下しているので、感染を起こしやすい為です。普段の生活の中で起こる肺炎の原因となる細菌やウイルスのうち最も多いの(28%)は肺炎球菌です。

肺炎球菌ワクチンが1回の接種で十分な効果を持続する期間は約5年程度です。全ての肺炎を予防するものではありませんが、肺炎球菌による肺炎や髄膜炎などの感染症を予防し、重症化を防ぐ為、肺炎による死亡率が低下するという、日本の研究報告があります。肺炎球菌ワクチンとインフルエンザワクチン(肺炎の原因の7,5%)の両方を接種しておくことで、さらに効果的な肺炎予防ができます。(インフルエンザワクチンの効果は半年程度とされています。)

## 木造住宅の耐震改修工事補助要件の拡大について



区では主に、1981年5月31日以前に建てられた建物を対象に耐震化支援事業を進めてきました。首都直下型地震の切迫性が指摘される中、命を守る事、周辺の建物に被害が及ばないような安全なまちにすることを最優先し、これまで耐震改修工事の補助対象としていなかった「道路に突出している木造住宅」「敷地が道路に接していない木造住宅」にも補助することとしました。

災害時焦って外に出ると落下物や避難した方のパニックなどから逆に危険な可能性がありますので、「災害に強い逃げないですむ安全なまち」にするため、区の耐震化支援事業をご利用ください。

今回拡大した住宅も含め、耐震改修工事への補助を受ける際一定の要件がございますので、気になりましたら、ご連絡ください。

上記の耐震改修の他に、予備耐震診断、耐震診断・補強設計への補助、耐震改修工事への補助、工事管理への補助も行っています。

非木造建物の耐震化も要件がございますが、簡易耐震診断、補強設計への補助、耐震改修工事への補助を行っています。

上記の建物の耐震化とは別に「耐震シェルター設置」「耐震ベッド設置」への補助も行っております。

耐震化支援事業に並んで、アスベスト対策費の助成についても行っております。アスベスト含有調査費の助成やアスベスト除去等工事費の助成も行っています。助成の対象かどうかはまず、ご相談ください。

なお、いずれも行ってしまった後では助成できませんのでご注意ください。